

はくさい

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
軟 腐 病	植付前 生育中	○ 連作を避ける。 ○ 本病の病原菌はあぶらな科のほか、他種類の作物に寄生する。 ○ 発病の多い畑では、播種期をできるだけ遅らせるか、晩生品種を栽培する。 ○ 病原菌は、カタツムリ、キスジノミハムシ、ナメクジ、ネキリムシ等の害虫による傷口から侵入するので、これらの発生に注意する。 ○ 害虫駆除や中耕作業の時に葉を傷つけないようにする。 ○ 台風などで株が傷んだ後は速やかに防除を行う。
べ と 病	生育中	○ 被害茎葉を除去する。 ○ 多湿多雨な年には発生が多くなるので、散布間隔を短くする。 ○ 肥切れしないようにする。
黒 斑 病	植付前 生育中	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 連作を避ける。 ○ あぶらな科の作物に広く発生する。 ○ 肥切れしないようにする。 ○ 被害茎葉を除去する。
根こぶ病	植付前 収穫後	○ 連作を避ける。 ○ あぶらな科の作物に広く発生するが、はくさいに最も被害が多い。 ○ 排水を良くし、酸性土壌では酸度を矯正する。 ○ 抵抗性品種を作付けする。 ○ 早播きすると発生が多くなる。 ○ 移植栽培を行うと被害が軽減できる。 ○ 近年、根こぶ病抵抗性品種（C R）が罹病化する事例が見られるので発病状況に注意する。 ○ 収穫と同時に根を抜き取り適切に処理する。
白 斑 病	植付前 生育中	○ 連作を避ける。 ○ 肥切れしないようにする。 ○ 本病は種子伝染しない。 ○ 早播きすると発生が多くなる。 ○ 被害茎葉を除去する。
黒斑細菌病	植付前 発病初期	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 連作を避ける。 ○ 台風などで株が傷んだ後は速やかに防除を行う。
モザイク病	植付前 生育中	○ 播種期を遅らせ、抵抗性品種を栽培する。 ○ 秋まきのはくさい、だいこんに被害が多い。 ○ 苗床を寒冷紗で被覆する。 ○ 発病株は、抜き取り適切に処分する。